

## 編集後記

第14回年次大会のテーマ「翻訳とジェンダー」は、水田宗子(1991)が Trans/gender/lation と示したような、「ジェンダー」が「翻訳」の中にすっぽりと包み込まれる、あるいは「ジェンダー」が二つの異なる言語の間の「翻訳」という架け橋と重なり合う形でイメージできる。また、一方の言語でジェンダーについて「有標」とされる言葉が、もう一方の言語に移し変えられると「無標」となるような翻訳行為に伴う変化は、ジェンダーが文化や社会によって多様に位置づけられることにも呼応している。このような広がりを見せるジェンダーと翻訳をめぐる問題は、今後もっと取り上げていきたい領域の一つだと考える。さらに本大会では、「翻訳とジェンダー」を含むさまざまなトピックの研究発表が5件もあり、発表後の質疑応答でも大変活気のあるやりとりが見られた。討議の時間が少なすぎると思わせるほどに、しかし学会としては理想的な展開で、大会の幕を閉じることとなった。ハンガリーにおける研究例会は、日本語とハンガリー語、また日本文化とハンガリー文化の、ジェンダーを共通の視点として互いを照らし出すような発表の場となった。

今年度の学会誌は、投稿あるいは寄稿による論文・研究ノートに掲載がなく、編集委員長としてその責任を痛感している。今後はさらに執筆者の開拓に力を注ぐとともに、是非、会員の皆様からの画期的な論考のご投稿を願います。

(第14号 編集委員長 斎藤理香)

## 編集委員 (\*は委員長)

小川早百合、門倉正美、\*斎藤理香、因京子、日置弘一郎、渡部孝子

## 査読協力者

佐々木瑞枝

日本語とジェンダー  
第十四号

2014年6月発行

編集者 日本語ジェンダー学会  
学会誌編集委員会

発行者 日本語ジェンダー学会

〒194-0294 東京都町田市常磐町 3758 番地  
桜美林大学 リベラルアーツ学群  
穂田研究室

TEL 042-797-9421

E-mail jimukyoku@gender.jp

ISBN 4-9900828

[目次に戻る](#)